

## 見学調査報告書

---

ゼミ名 : 木立 真直ゼミ  
調査日 : 2019年4月9日(火)  
調査先 : 東京都中央卸売市場豊洲市場  
対応者 : 東京都中央卸売市場  
菅井 淑章 様、岩崎 聡子 様、高橋 貴大 様、加納 陽菜 様  
参加学生数 : 学生18名、院生4名、教員2名 計24名  
(東京大学矢坂ゼミと合同実施)

### 調査の趣旨及び目的

豊洲市場は、築地市場に代わる中央卸売市場として2018年10月11日に豊洲の地に開場した。同市場は、50年先まで見据えた首都圏の基幹市場として、効率的な物流の実現などに対応できる施設となっており、環境面における工夫もなされている。今回、我々は豊洲市場を都の方々のご案内により、見学させていただいた。本調査を通して豊洲市場における水産・青果品の物流や今後考えられる課題について学ぶ。

### 調査結果

都の方のご案内の下で、見学者コースに沿って青果棟、水産卸売場棟、水産仲卸売場棟の順で見学させていただいた。市場全体のミニチュア模型を見ながら、豊洲市場における人とモノとの流れについてお聞きしたのち、実際に個々の施設を視察した。質疑応答では、築地市場と異なる点や、衛生管理、豊洲市場の問題点、東京オリンピックに向けた話など事前調査では見えてこなかった部分を知ることができた。

見学調査により明らかになったことは以下のとおりである。我々は事前調査の際、築地と豊洲の両市場を比較した。豊洲では水産の卸と仲卸で建物が分かれており、築地ブランドを支えてきた「目利き」文化の衰退が不安視されてきたが、目利きは現在でも行われている。我々が「豊洲の強みをどこに見出すか」という趣旨の質問をした際、都の方からは「衛生管理を特に重視している。そのためしっかりとした取引ができ、築地よりも海外から評価されている。」とのご回答をいただいた。実際に豊洲市場は「食品衛生法」に基づき、職員が毎日早朝から卸売場や仲卸店舗をまわり品物が衛生的に扱われているか、有害な物品はないかについて監視を行っている。また細菌検査なども行い、違反あるいは有害な食品が発見された場合は、廃棄や販売禁止等の処分や衛生指導を行っている。また豊洲市場移転後に初めて取り入れられたのが物品の鮮度を維持しながら保管する自動立体低温倉庫である。この設備により、品物の鮮度は確実に保たれる。このように豊洲市場の調査では衛生面や健康面のリスクを減らす工夫を随所で確認することができた。

一方で、移転前にはメディアによる豊洲市場の地下水から有害物質が検出されたとの報道もあり、移転を巡って不安視される声も多かった。ただベンゼンやヒ素といった有害物質が検出された地下水を使って水産や青果品を調理し我々の体内に取り込まれるわけでは

ないため、これらの物質が著しく健康に被害を及ぼすリスクは極めて低いとの見解もある。メディアでは、消費にとっての「安全」よりも、むしろ「安心」を重視して報道したということもできる。

調査中に、都の方より、卸売場では並べた時にマグロの色味を良くするために床をグリーンにし、酸化を防ぐために照明の色を調節するといったお話を伺うことができた。豊洲市場は細部にわたって工夫がなされていることを実感した。

豊洲市場を見学させていただき、以前抱いていた豊洲市場に対するイメージが良い意味で180度変わった。閉鎖型施設としての特徴を生かした温度管理や衛生管理、また充実した飲食店舗、物販店舗、屋上緑化広場や太陽光パネルの活用をはじめとする環境に対する取り組みなど、どのエリアも我々の想像を超える最新鋭の設備ばかりであった。特にコールドチェーンの維持のため、卸売場や仲卸売場の近くに荷物を整理するスペースや駐車場を確保し、車や荷物が一直線上にスムーズに流れるような新たな物流システムは豊洲市場だけでなく他の市場でも取り入れるべき効率的なものであると感じた。2020年の東京五輪に向け、AIやIoTの活用や安定した食料供給などの多くの課題が残る豊洲市場ではあるが、実際に見学したことで、同市場の先進性を肌で感じることができた。

今回、貴重なお時間を割いて、我々の市場訪問を受け入れてくださった東京都中央卸売市場の皆様にご心より感謝申し上げます。この経験を将来に大いに生かしていく所存です。誠にありがとうございました。

(文責：長坂 郁也、上垣 亮太、向島 彩夏、細川 美緒、西内 悠太)